

平成26年度教育研究交流委員会 国際交流 オーストラリア セントラル・クィーンズランド大学(CQU) 看護学部教員の招聘

教育研究交流委員会：嶋 田 理 佳、金 子 典 代、香 月 富士日、
山 口 孝 子、市 川 誠 一

教育研究交流委員会では看護学部における国際活動の一環として、学生を対象とした看護系語学研修プログラムを開発し、2013年8月24日～9月15日の日程でオーストラリア セントラル・クィーンズランド大学(CQU)に8名の学部生を派遣した。その後、さらなる交流の推進を図ることを目的として2014年3月3日～9日までの7日間、Trudy Dwyer博士を本学に招聘して相互理解を深めるとともに、今後の交流発展に向けた協議を行った。本稿ではこの招聘事業について報告する。

1. 来学された教員

本学が招聘したDwyer氏とともに同僚のDebbie Austen氏もCQUから派遣され、2名の教員が来学された。Dwyer氏はクリティカルケア看護学の准教授である。オーストラリアにおいてクリティカルケア看護分野の豊富な臨床および教育経験を有し、蘇生法、院内救急対応システム、重症患者へのケア、シミュレーション教育などを研究テーマとされている。Austen氏もDwyer氏と同様にクリティカルケア看護学が専門であり、現在はCQUの高度教育センターのディレクターとして活躍されている。両氏とも最近ではCQUで開発された新しい教育技法である模擬患者に扮した演習“MASK-ED™”に関する教育や研究も行っている。また、CQUの国際的な教育・研究・交流事業も担当されており、本学部の学生が2013年8～9月にCQUにおける語学研修に参加した際には、看護系の講義や演習を実施するなど本学部の学生の学びに深く関わってくださった。

2. 滞在中のプログラム

滞在中のスケジュールを表1に示す。以下は実施した主なプログラムである。

1) 国際交流ワークショップ

テーマ：“Mask-Ed™” および “Pup-Ed™”

日 時：平成26年3月5日(水)

10時30分～12時30分(120分)

場 所：名古屋市立大学 看護学部308講義室

参加者：教員、学生約20名

内 容：“Mask-Ed™”とは、シリコン製のマスクを装着した教員が患者に扮して模擬患者の役割を演じ、演習を展開するシミュレーション教育技法で、CQUの教員であるKerry Reid-Searl教授によって開発された。模擬患者役の教員が学生とコミュニケーションを取りながら学生個々のレディネスや反応に柔軟に対応しながらシナリオを進め、看護的視点で対象観察や看護技術を指導する。“Mask-Ed™”は“オーストラリアで商標登録されているツールである。

“Pup-Ed™”は主に小児科でのプレパレーションにおいて活用される技法で、同じくKerry Reid-Searl教授によって開発されたものである。身長1mくらいの人形を小児患者役に見立ててその相方を看護師（もしくは教員）が勤め、2人1組で独特のコミュニケーション方法を用いて見ている人に情報を伝える。今回の人形は小児糖尿病という設定で、インシュリン注射に関する話が展開された。

今回のワークショップではこれらの技法の実演と理論的背景についての講義を行っていただいた。効果的な授業を考えるうえで、示唆に富む内容であった。

2) 講演会

テーマ：国際交流セミナー “オーストラリアおよびオーストラリア セントラル・クィーンズランド大学における看護学生の教育と国際交流活動について”

日 時：平成26年3月5日(水) 15時30分～17時00分
(講演60分・質疑応答30分)

場 所：看護学部会議室

参加者：教員、学生約20名

内 容：スライドを用いながらオーストラリアの医療

事情、看護師教育と就労状況、卒後教育などの概要が説明された。参加者にはオーストラリアの医療およびCQUの教育への理解を深める機会となった。

3) 昼食会

日 時：3月5日(水) 12:30～13:30

場 所：西棟サクラサイドテラス

参加者：本学部教員合わせて合計10名

内 容：インフォーマルな会による交流を図った。参加者は自由に語り合いながらコミュニケーションをとり、相互理解を深めた。

4) 施設見学

日 時：3月6日(木)・3月7日(金)

見学先：・児童養護施設ひばり荘

- ・精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェ
- ・名古屋市立大学病院（外科系病棟、ICU、小児病棟、NICU、中央手術室、特殊外来、化学療法室など）

内 容：学部外の関係者の協力を得て、日本の医療・福祉に対する理解を深めていただく機会とした。地域で展開されているさまざまな活動や、名古屋市立大学病院の1階の外来棟、アトリウム災害対応、6階庭園など日本独特の設備にも興味を示されていた。

5) 本学部教育研究交流委員会との会合

今後の相互交流のあり方について意見交換を行い、今後も積極的に両学部が交流を重ねることで合意した。学生教育の点では、本学部3～4年生8名が参加した2013年8～9月の語学研修の振り返りを行ってその教育効果を確認し、今後も同様のプログラムを継続することで合

意した。また、教員間交流や共同研究の可能性についても検討し、本学では教育研究交流委員会が窓口となって両学部間の教員のマッチングを行い、教員間の共同研究の推進を図ることとなった。こととなった。また、看護の日（毎年5月12日）に両大学でイベントを同時開催し、その模様を交信するなどして交流を深めることを申し合わせた。

3. おわりに

本学部学生向けの看護系語学研修を契機に開始した交流が発展し、2名のCQU教員の来日が実現した。CQU、本学とも双方が今後の交流継続を強く希望していることを確認し、学生の看護系語学研修の再実施や教員間の共同研究の実現も検討していくこととなった。CQUは国立の総合大学で、留学生も多く受け入れ日本の大学との交流実績もある。CQUとの交流は名古屋市立大学全体にとっても将来性・発展性が高い事業であり、国際的に活躍できる人材の輩出を担う本学の役割という点からも、今後ますます活発に交流を重ねる意義があると考えられる。

4. 謝 辞

招聘プログラム実施にあたりご協力くださった名古屋市立大学教職員と学生の皆様、児童養護施設ひばり荘、精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェの皆様に感謝申し上げます。本事業は本学の平成25年度特別研究奨励費（国際交流推進関係）「研究課題名：セントラル・クィーンズランド大学との教育・研究における交流の確立に向けて」による助成を受けて実施しました。

表1 滞在中のスケジュール

	午前	午後
3月3日(月)		名古屋着 宿舎オリエンテーション
3月4日(火)	学部長挨拶 理事長表敬訪問 キャンパス内ツアー	学生との交流 日本文化体験
3月5日(水)	Workshop “Mask-Ed™” “Pup-Ed™” 昼食会	講演会 “国際交流セミナー”
3月6日(木)	精神障害者リハビリ施設寸心カフェ見学	名古屋市立大学病院見学
3月7日(金)	児童養護施設ひばり荘見学	委員会メンバーとのミーティング



写真1 理事長（当時）表敬訪問
（前列向かって左がDwyer氏、右がAusten氏）



写真2 ワークショップ “Mask-Ed™”
（向かって左がマスクをかぶり老女に扮したDwyer氏）



写真3 ワークショップ “Pup-Ed™”



写真4 交流を伝える記事
（本学の広報誌「創新」Vol.13に掲載）



写真5 講演会